

第2回 新市立島田市民病院建設基本構想策定における合同ヒアリング 議事録

1 開催日時

平成26年4月24日（木） 18時30分から20時00分

2 出席者

(1) 有識者

星 和夫（ベトレヘムの園病院 顧問） 神原 啓文（静岡県立病院機構 前理事長）
西田 在賢（静岡県立大学 教授） 望月 律子（静岡県看護協会 会長）
木村 雅芳（中部保健所 所長） 藤本 嘉彦（島田市医師会 会長）
渡邊 義介（島田歯科医師会 会長） 杉村 美昌（島田薬剤師会 会長）
高木 平（榛原医師会 会長） 又平 基史（榛原歯科医師会 監事）
田代 州彦（榛原薬剤師会 理事）

(2) 島田市民病院

服部病院事業管理者、村田病院長、森田病院事務部長

(3) 島田市

染谷市長、渡辺副市長、牛尾企画部長、畑健やか・こども部長、佐久間建設部長、
中村市民福祉部長

(4) システム環境研究所

岩本、太田、八尋、中島

3 市立島田市民病院の機能・規模について

～システム環境研究所が資料1、2の概要について説明～	
有識者A	平均在院日数短縮の観点より、10.4日を目標値とし、病床規模を算出しているが、平均在院日数を10.4日に短縮するためには、医療従事者数はどの程度の増員が必要となるか。
システム環境研究所	現時点では現状のまま想定している。
有識者A	平均在院日数を短縮するためには、多くの医療従事者数の増員が必要となる。また、医療従事者数を増員した場合、それに伴い、職員用のスペースの確保が必要となる。
システム環境研究所	医療従事者数の算出において、1病棟あたりの病床数が重要になると考える。よって、基本計画にて、1病棟あたりの病床数を確認する上で、医療従事者数について精査する。
有識者B	現在、榛原病院において、医師不足が問題となっており、病院として

の機能が成り立たなくなってきており、島田市民病院の役割は大きい。現状では、病院が建設される平成32年以降まで、診療機能を継続できる保証はない。このことから、新市立島田市民病院について検討する上で、四郡市の医療圏を考える必要があるので、島田市の患者のみでなく、榛原地区の患者の流入も考慮してほしい。

システム環境研究所 本検討資料において、市立島田市民病院入院患者の中で、榛原地区からの患者がどの程度の割合となるかは把握してはいない。しかし、平成25年5月時点のデータで検討しているため、少なくとも、榛原地区からの流入患者数も含めた上で検討を行っている。

有識者B 病院のカバー領域としては、島田市のみでなく、榛原地区の患者も含めて考える必要があると考える。新病院建設に向けて、島田市のみでなく、榛原地区も含めた検討を行っていただきたい。

島田市民病院A 現在、島田市民病院においては、医師数が充足している診療科について、榛原総合病院から患者を受け入れている。今後も、その方向性で連携を取れるように努力したい。もし、医師不足により、連携が不十分となった場合には、医師会に協力を要請し、対処したいと考える。

有識者C 榛原総合病院は徳洲会によって運営されているが、病院運営方法や今後の方向性について、牧之原市の議員や市民に懸念の声がある。榛原医師会としても、榛原総合病院の将来に不安を感じているものの、運営形態が徳洲会であることから、病院内部の情報について不明な部分が多く、対策が困難となっている。今後、榛原総合病院の診療が継続できなくなった場合は、最低限、榛原地区の医療は確保出来るよう努力したいと考える。このため、島田市民病院には、今後も、榛原地区の医療支援を行っていただきたい。新病院建設については、志太榛原医療圏を見据えた構想作りが不可欠であり、各自治体においては、最低限の救急医療が提供出来る体制の整備が必要である。

有識者B 新病院建設において、医療圏全体を見据えた構想作りが必要であるとの意見に賛成である。5、6年程前に、それに関する会議の場を設けようとしたが、成立しなかった。しかし、現在、5、6年前には無かった多くの課題が存在するため、改めて会議の場を設けるように努力していきたい。一方で、榛原総合病院の徳洲会による指定管理は10年間となっており、来年、見直しが行われる。見直しの中で、榛原総合病院について、病床数の検討等、今後のあり方について検討する必要がある。

有識者C 榛原総合病院の病床稼働率は低く、効果的な病床の使い方について検討の余地がある。しかし、そのときの検討課題として医師不足が挙げら

れる。

有識者D 本検討資料における診療機能、及び病床規模での経営収支はどうか。

システム環境研究所 事業費については、約250億円程度を想定している。その上で、事業収支シミュレーションを実施していく必要があるが、経営状況は非常に厳しいと思われる。そのため、今後、収支シミュレーションを検討する中で、事業費の圧縮方法や診療単価等の収入設定等について検討していく必要がある。

有識者D 今後、500床以上の病院において、紹介状無しの初診患者については、選定療養費1万円を算定する動きがある。島田市民病院において、選定療養費1万円を算定することは市民に受け入れられず、患者の足が遠のき、収益が減少する可能性がある。よって、選定療養費算定の有無について、慎重に選択する必要がある。

システム環境研究所 本資料にて提示した病床規模は一つの基準であり、今後、病棟毎の病床数を決定していく上で、全体の病床数は、今回提示した病床数から変化すると考える。その際に、上記、選定療養費に関する医療動向も参考に検討していきたい。

有識者D 市立島田市民病院の機能を2施設に分割し、合計500床程度とする案があってもいいのではないか。

有識者E 新病院が島田市のみでなく、榛原地区等の広域の診療を担うならば、それを考慮した病床規模の検討、及び建設候補地の決定が必要であると考える。一方で、現病院機能では広域の診療をカバー出来ない場合は、現病院を一般病床機能と療養病床機能として、2施設に分割し、地域医療に貢献することも可能であると考える。その際には、将来の医療需要を意識した上で検討する必要がある。

島田市民病院B 病床規模を検討する上で、どの地域までの医療をカバーするかは重要であるが、それよりも、最も重要なのは、どの疾患まで対処するかを決定することであると考える。対応する疾病の範囲を決定することは、病院の医療水準を決定することに繋がる。高水準の医療を提供出来れば、医療資源の確保も可能となる。一方で、広域の医療をカバーしたとしても、医療水準が低ければ、赤字経営は確実である。ビジョンをどこにもっていくのか。規模を考える上で榛原地区を入れるかなど診療圏をどうするかというのも大事であるが、絞り込むのは地域ではなく、病気を絞り込むという考えは必要である。

ただ500床規模の病院として、高度医療の水準を維持するには、島田市の人口では少なすぎると考える。

有識者A	島田市と焼津市の中間にということもあるのか。
有識者D	焼津市立総合病院の建て替えに関する検討会の委員長を担当したが、焼津市立総合病院と島田市民病院が一緒になるのは考えられません。
島田市A	焼津市の考え方もあることから、焼津市立市民病院と市立島田市民病院との合併は、現状では難しい。しかし、今後の島田市の医療を考える上で、志太榛原医療圏内での連携が非常に重要であると考え。連携できることは連携していきたい。今後、そのような会議の場を設けることが重要と考える。
島田市民病院B	長期的な視点で考えると、確かに医療圏全体を考慮した構想作りは必要であると考え。今後、10年から15年をどう乗り切るのか。島田と榛原を考えると建て替えしかない。その先のことは20年から30年先の話である。現状は、島田市だけを考えるのではなく、榛原も含めて考えていかななくてはいけない。その先に藤枝市と焼津市の話が出てくる。
有識者D	2009年度から5年間、県の健康福祉部の依頼により、講演を行った際に、志太榛原医療圏の市立4病院が参加していた。この時、牧之原市職員は榛原地区が抱える医療の問題を認識していた。志太榛原医療圏の市立4病院における協議は今後も重要だと考えられる。
島田市民病院A	以前、島田市民病院は、入院患者数が少なく、赤字経営となっていた。しかし、榛原総合病院の経営が縮小し、榛原地区からの患者が流入した結果、入院患者数が増大し、経営が向上した経緯がある。そのため、新病院建設において、榛原地区を診療圏から除外したら今の規模は無理である。 今、がん患者が静岡市内やがんセンター等の医療圏外に流れている。今後、島田市民病院において、どれくらいがん患者の受入れ体制ができるか検討する必要がある。診療圏については、榛原地区も入れて考えていきたい。

4 建設候補地について

	～システム環境研究所が資料3の概要について説明～
有識者A	建設候補地選定評価について、点数配分はしているのか。
システム環境研究所	本検討資料では、どの評価項目も重要であると考え、各項目20点ずつで評価している。

有識者A	島田市民や、市立島田市民病院職員等、それぞれの立場によって、重要視する項目が異なることが予想される。よって、評価項目の点数配分には十分留意する必要がある。
有識者B	島田市民病院の医療圏を、島田市のみと考えるならば、現地建て替えが最も優良であると考え。しかし、将来的に、島田市のみでなく、榛原地区の医療も担うならば、榛原地区からの交通アクセスに留意した選定地を選ぶべきであると考え。初倉の茶畑や権現荘の跡地など富士山がよく見え、土地があるところがいいと思う。市街地の人からは不満が出るだろうが、大局的に考えれば榛原あるいは菊川に行く人も取り込める可能性がある。牧之原市も含めてどこがベストか考えてほしい。
有識者C	利便性の評価として、人口密集地との位置関係を評価しているが、病院においては、必ずしも人口密集地に位置することが優れているとは考えない。むしろ、人口密集地においては、渋滞等による交通アクセスの障害が起こる危険性がある。実際に、藤枝市立総合病院は、駅前に位置していたものを山の上に移動している。人口密集地からある程度離れても、後から周りが栄えてくる。最も重要なのは、利便性よりも必要面積の確保であると考え。
島田市民病院B	超高度医療機関ならば、人口密集地から離れた場所に建設することも可能であるが、我々の目指すものがどの水準にあるか。市街地から遠く離れた場所に建てた場合、島田の市街地からは藤枝市立総合病院が近くにあることになる。つまり、選定候補地を選ぶ上で、今後、20年先の病院のあり方を見据えた、集客も考え、利便性も考えた戦略的な選定を行う必要がある。
島田市民病院A	市街地から離れた場所に建てた場合、バイパスを利用して市民病院に来ている川根地区、金谷地区の患者に加えて島田市東部の患者も他に流出してしまう。その流出分の患者を榛原地区からの流入患者で補うことはできないだろう。
有識者B	確かにリスクが高いが、あくまで、島田市のみでなく、志太榛原医療圏を考えた場合のことを言ったことである。藤枝市立病院には、ある程度患者が行っているが、開業医は患者の意向とともに診療内容によって紹介を使い分けている。市街地は人口が減少して榛南地区の患者が焼津市立総合病院に行くかもしれないので、真ん中に立地するのもいいのではないかという単純な発想である。
有識者F	榛原地区から島田市に患者が流入している現状と、市立島田市民病院が今後診療を継続していく上で、榛原地区からの流入患者が必要となる

	ことから、島田市と榛原地区の連携は不可欠である。規模が大きい方が病院のレベルも高い傾向がある。医療圏と行政区は別である。
有識者D	建設候補地の一つである島田市役所+プラザおおるり+中央小公園の評価点数が低い理由は何か。
システム環境研究所	市役所周辺は敷地面積が小さいため、立体駐車場の設置が必要となる。このため、駐車場整備費として事業費が増大することから点数が低い。
島田市A	市役所周辺に新病院を建設する場合、現市役所を移転する必要がある。しかし、現状、市役所移転における貯金と建設計画が無い状況である。
有識者C	現地建て替えの場合、診療を継続しながらの建て替えとなるため、移転建て替えに比べて、工期が長くなり、事業費が大きくなることが予想される。
システム環境研究所	ボリューム検討より、現駐車場敷地にて、一期工事のみで新病院を建設することが可能であると考えられる。そのため、工事を分割しないため、大幅に工期が長くなることは無いと考える。
有識者C	現地建て替えの場合、現病院にて診療を行う上で、工事中の騒音や、駐車場等の問題が発生する。そのため、現地建て替えは、問題もある。
有識者D	新病院建設地として、耐震性が重要であると考えますが、各建設候補地の耐震性はどうか。
システム環境研究所	各建設候補地の耐震性の確保については、技術的に問題は無い。今回の建て替えの大きな目的の一つとして、耐震性の確保が挙げられており、早急な対応が求められていると考える。そのため、新病院建設において、迅速さを意識した上で、本会議の意見を参考にする。

5 その他

島田市B	有識者合同ヒアリングは本日で終了となる。以上で閉会とする。
------	-------------------------------